

兵庫県但東町

日本・モンゴル民族博物館年報

第 7 号 (平成15年度)

Annual Report of the JAPAN MONGOLIA Folk Museum
No. 7 (for the fiscal years of 2003)

あいさつ

当館は、平成8年に生涯学習活動の振興と国際理解教育並びに学術、文化の発展に寄与することを目的に設立され、8年余を経過しました。モンゴル民族の文化を理解していく基礎コレクションをはじめとして、モンゴル近代絵画コレクション、チベット仏教コレクション、考古資料、旧町立民俗資料館資料など、約1万点以上の資料を収集し、収蔵してきました。モンゴル民族資料は質・量ともに国内有数の資料ですが、常設展示できるのはそのごく一部に過ぎず、残念ながら大部分は未公開となっています。資料の有効活用を図る意味からも積極的な出前講座やアウトリーチは今後も推進していく方針です。

町立の施設として、「小さな町の大きな国際交流」を標榜しながら、モンゴルの歴史や文化を紹介してきました。そういう意味では博物館であり、モンゴルの広報センターとしての機能を合わせ持つ施設でもあります。これまでの活動で蓄積してまいりました資料・技術・経験に加え、国際交流の成果や特性を生かした展示など、これまでの蓄積を積極的に活用する多様な活動を今後も進めてまいります。

平成15年度は、博物館を取り巻く環境が大きく変わりました。完全学校週5日制、総合的学習の時間の実施、生涯学習の進展など、博物館開館以来、大きな環境の変化でした。現在、利用者数も過去3年間に比較し昨年度は大きく減少し、事業評価が大きく問われています。これを契機に、職員の研究も博物館展示もさらに活性化すよう、これから全館あげて新体制づくりの準備をしなければなりません。目的達成のため他館とともに研修会や情報交換会を実施するなど施設相互の連携をより図っているところであります。

本年4月1日には1市5町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）の合併に伴い、新豊岡市が誕生します。合併する市域は約700km²にも及ぶ広大な面積を有しておりますが、個性ある博物館や美術館も多く、施設間の連携も進んでいくものと思慮されます。これまで皆様の長年のご協力に感謝するとともに、今後とも忌憚のないご意見を賜り、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月1日

日本・モンゴル民族博物館

館長 金津 匡伸

目 次

I. 平成15年度概要	4
II. 展 覧 事 業	4
1. 常 設 展	
2. 企 画 展	
III. 調 査 研 究 事 業	9
1. 但東町指定文化財 赤坂古墳発掘調査	
2. 文化財調査委員会の開催	
IV. 資 料 収 集 保 存 事 業	11
1. 寄 贈	
2. 購 入 資 料	
3. 資 料 の 貸 出	
4. 資 料 の 燻 蒸	
5. 文 化 財 標 柱 設 置	
6. 蔵 書 の 翻 訳 整 理	
V. 普 及 教 育 事 業	14
1. 出 前 授 業	
2. 普 及 事 業	
3. 「トライやるウィーク」の受入	
4. 講 師 派 遣	
5. 出 版 活 動	
6. ホームページのリニューアル	
7. 子ども放送局の設置	
8. 博物館学芸員実習生の受入	

VI. 国際交流事業.....19

- 1. モンゴル国との国際協力
- 2. イベントへの協力

VII. 管理運営.....20

- 1. 組織・職員
- 2. 予算の概要
- 3. 利用者の状況
- 4. 施設管理
- 5. 博物館協力会
- 6. 博物館日誌抄
- 7. 来館者の声より抜粋
- 8. 施設概要
- 9. 利用案内
- 10. 交通案内

あとがき..... 34



「古里のモンゴル館」創造美術協会 会員 箱田正子氏 寄贈

I. 平成15年度概要

当館の事業を大きく分けると、博物館運営・文化財保護・国際交流の三つに大別される。

博物館運営として、常設展や企画展などの展示活動、調査研究活動、資料収集保存活動、普及教育活動がある。常設展はこれまで部分的に変更しており、開館時と比較すると大きく変化している。

利用者数は平成12年度以降徐々に増加傾向にあったが、本年度は前年度対比で20%の減となった。また、年間305日開館し一日当たり平均利用者数は80人であった。

企画展は、館蔵のモンゴル絵画約300点を第19回から第24回まで1年を通して一挙に公開した。

普及教育活動では、学校教育の総合学習を積極的に支援する目的で出前授業を実施しているが、本年度は希望校が大幅に増え近隣市町をはじめ県下各地34校で実施し

た。博物館教室は、夏休み期間中を主に年間27回実施し延べ401人の参加をみた。また、本年度で4回目となる博物館学芸員実習を大学の夏休みに受入れた。

文化財調査関係においては、懸案の事項であった赤坂古墳の発掘調査を実施し、博物館敷地内に移設復元をした。また、昨年度来調査を継続してきた大河内地内に自生する大桜を「河ノ辺の大桜」として但東町指定天然記念物に指定した。農村歌舞伎舞台活用事業として昨年度に引き続き町内3会場で公演した。

国際交流関係では、隔年で実施しているモンゴル友好使節団派遣事業はSARS（新型肺炎）の流行が懸念されることから中止となり、代替事業として本町中学生を中心とした国際交流イベントを実施した。

II. 展覧事業

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、A棟のたんとうの森、B棟の東アジアの歴史・チベット仏教、C棟のモンゴル草原の暮らしと文化、伝承文化体験交流館の但東の暮らしから構成している。

- ◎ たんとうの森……人工樹林を配し、平安時代前期の朽ち木仏像5体を展示
- ◎ 東アジアの歴史……恐竜の卵化石から中国元代までの歴史資料を展示
- ◎ モンゴル草原の暮らしと文化……ゲルと呼ばれる住居を中心に衣食住をテーマ別に展示
- ◎ モンゴル草原のいのり……チベット仏教の寺院を再現し、各種資料を展示
- ◎ 伝承文化体験交流館……昭和30年代の民家の一部を再現、暮らしの道具などを展示

(2) 常設展の追加

「上天より命ありて生まれたる蒼き狼」

作：D. ウルタナサン（モンゴル国芸術家連盟所属）

G. バルスボルド（モンゴル国芸術家連盟所属）

制作年：2000（平成12年）年8月～

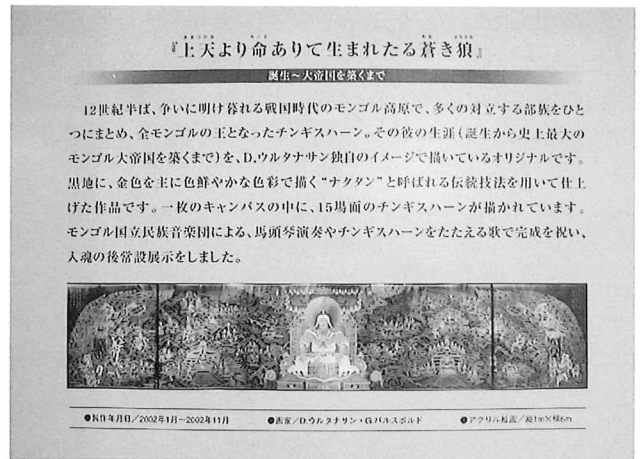
2002（平成14年）年11月

寄贈：平成14年11月15日

作品はモンゴルの盟主チンギス・ハーンの生涯を描いたもので、構想・下絵から完成まで2年以上の年月を要した。作品名については元朝秘史にある巻頭の言葉「上天より命ありて生まれたる蒼き狼ありき、その妻なるき牝鹿ありき、大いなる湖を渡りて来ぬ……」から付けられたものである。作品はモンゴルである程度まで描き上げられ、平成14年8月末に来日し11月まで当館に宿泊して最終仕上げをしたものである。本年度は両氏から寄贈された作品を特注の額装(6m×1m)に仕上げ、伝承文化体験交流館への通路に展示したものである。



展示風景



解説パネルの設置



額装された絵画 「上天より命ありて生まれたる蒼き狼」

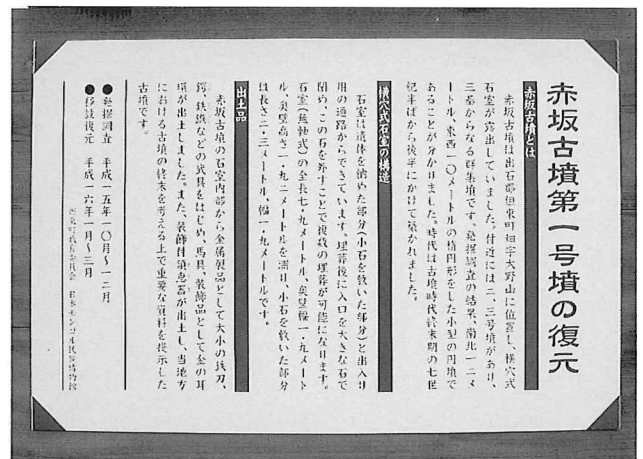
(3) 屋外展示

① 赤坂古墳第1号墳の移設

7世紀後半に構築された赤坂古墳は急傾斜地に位置し、横穴式石室が崩落する危険性が高く、兵庫県文化財室より善処策の指導を受け、平成15年度の事業として発掘調査の後、博物館敷地に移設した。今後は、一般公開するとともに学習施設として活用をする。



移設復元された赤坂古墳



赤坂古墳第1号墳の案内板

② ヤギの飼育

県立但馬牧場公園より親子の山羊を寄贈いただいた。動物とのふれあいを通して楽しめる、体験型環境学習への取り組みとして飼育展示している。

最近、動物介在教育では知識の素材として、動物・自然・環境といった理科や社会科に限らない広い分野の学習が行えること、命の大切さに対する思いやりを深めていく動物福祉教育、野生動物や自然に対する理

解を深めていく環境教育という、大きな方向性があると考えている。モンゴルの特徴的な家畜文化の一端を利用者に広く紹介し、館内の常設展と併せてモンゴル理解を促進させていきたい。



メイとハネル（右）

(4) 職員による解説

当館の職員は現在5名で、来館者の要望に応じて随時解説補助をしている。解説は、数名から10数名程度の団体については各展示室を通して行っているが、20数名以上の団体については通路が狭いこともあり一般的なガイダンスや、各コーナでの個別的な質問への対応が主体となっている。

2. 企画展

平成15年度の企画展は、館蔵のモンゴル絵画約300点の内約100点を六つのテーマに分け、第19回から24回まで一年を通じてモンゴルの近代絵画を一挙に公開した。中でも国民画家G・オドンはモンゴルの近代美術の形成に最も重要な芸術家の一人であり、彼をテーマにした展示は本邦初公開となった。また、当館にたくさんの絵画を寄贈いただいたD・ウルタナサン氏の一連の画業を紹介する展示も、本邦初公開となった。この企画展を通して館蔵絵画の大半は額装を終え、良好な形で保存・収納することができた。

(1) 第19回企画展『モンゴル近代絵画の魅力』

平成15年4月3日～6月17日

66日間（見学者数：8,770人）

モンゴル近代絵画の第一人者N・ツルテム氏の油絵や、世界的に活躍するモンゴル伝統絵画の画家D・ウルタナサン氏、中堅で活躍している画家を中心に作品構成した。



貴族の夫婦



展示風景

(2) 第20回企画展『モンゴルの国民画家G・オドン展』

平成15年6月19日～平成15年7月29日

36日間（見学者：2,296人）

国家賞の受賞歴とモンゴル国民画家の称号を持つG・オドン（1925～1996）は、社会主義リアリズムを代表する芸術家として知られ、モンゴル近代美術の形成において最も重要な芸術家のひとりである。彼は、N・ツルテムとともに、モスクワのスリコフ芸術大学で高度な専門教育を受けたモンゴルで最初の芸術家でもある。帰国後は、国立教育大学の絵画教室で、長年にわたり若いモンゴル人画家を指導している。生涯を通じて彼が描いたのは遊牧民や労働者、農民などで、作品は労働者階級に対する称賛、社会主義体制のプロパガンダといったもので、彼の代表作「仕事を終えて」は、社会主義のリアリズムの好例であり、当時の時代的な雰囲気や情勢を映し出している。しかし、1990年における民主化以降、オドンはその関心を故郷や伝統へと転じていった。草原での生活、民族的な出来事を多く描くようになった。展示した作品は31才から最晩年の69才ま

での作品40点で構成されており、彼をテーマにした企画展は本邦初公開となる。



エギーン川



裸婦

(3) 第21回企画展

『チベット仏教の影響を受けた伝統絵画』

平成15年7月31日～9月23日

46日間（見学者：3,421人）

インドに源を発した仏教は、アジアの各地域で独自の発展をとげてきた。中でも高地チベットでは特異な仏教文化が育まれた。モンゴルでは、このチベット仏教の絵画技法を用いた伝統絵画が近年までその主流であった。

モンゴルの伝統絵画は、チベット仏教の「タンカ」と呼ばれる軸装仏画の影響を強く受けている。タンカは、古くチベットでは「タンゲー」と呼ばれ、ネパールでは「ポウワ」と呼ばれていたが、現在では統一して「タンカThanka」と呼ばれている。このタンカは、

チベット文化圏（中国チベット自治区、ネパール、ブータン、モンゴル、北インド方面）で作られる布に描かれた宗教画で、顔料は伝統的な鉱物からのものと、染料から作られたものを使用している。

近年には、多様な芸術活動とともに伝統絵画を描く画家も少なくなり、今回の展示を通してモンゴル伝統絵画の多様な展開を紹介したものである。



釈迦と千体仏



展示風景

(4) 第22回企画展

『D・ウルタナサン展—モンゴル芸術の伝統と革新—』

平成15年9月25日～11月25日

53日間（見学者：4,444人）

平成8年11月に開館した当館では、この7年間に多くの企画展を開催する一方、博物館資料の収集も積極的に行い、現在では絵画資料約300点の作品を所蔵している。本展では画家D、ウルタナサンご夫妻の来日を記念し、当館資料のみで構成する企画展「モンゴル

芸術の伝統と革新D. ウルタナサン展」を開催する運びとなった。D. ウルタナサン氏は、モンゴルを代表する芸術家の一人で伝統的手法を守りながら多様化しているモンゴル芸術の世界をリードしている代表格である。彼の一連の画業を紹介する企画展は本邦初公開となり、「それぞれ特色ある作品にふれていただき、心豊かなひとときを過ごしていただければ幸いです」と、氏からのメッセージも届いた。



展示風景



賢妃マンドハイ

(5) 第23回企画展『モンゴル近代絵画の巨匠』

平成15年11月27日～12月27日

30日間（見学者：1,187人）

モンゴル近代絵画の巨匠として有名なヤダムスレン、ゴムボスレン、ツルテム、アムガラン、オドンの五大巨匠の作品で構成する企画展である。彼らは旧ソ連や中国に留学経験をもち、社会主義時代の黎明期における新しいモンゴル芸術の世界を構築してきた人物ばかり

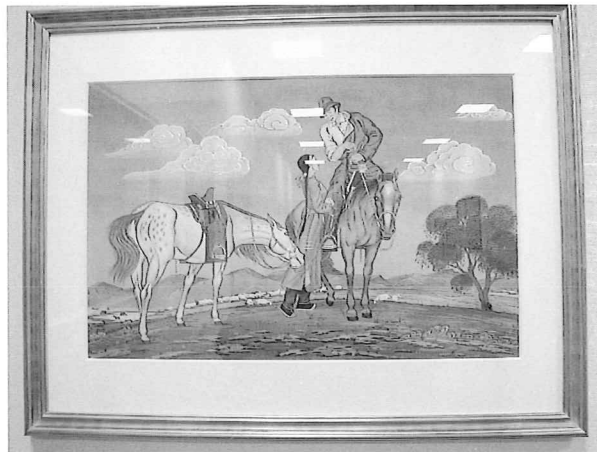
りである。労働や歴史的な事象をテーマにした作品が多いが、美しいモンゴルの自然をテーマにした作品には定評がある。

(6) 第24回企画展『民主化以降の現代絵画』

平成16年1月5日～3月30日

74日間（見学者：4,065人）

モンゴルの民主化運動は1989年末に始まり、1992年にはモンゴル人民共和国からモンゴル国に国名を変更し、新しい民主国家を築いてきた。社会主義時代においてはモンゴルの盟主チンギス・ハーンの肖像画を描くことすら禁止されていた。本展では民主化以降初めて開催されるチンギス・ハーン肖像画コンクールで優勝した作品をはじめ、トグスオヨンに代表される女性画家、若手芸術家による作品群で構成されており、これまで知られることの少なかったモンゴル芸術を理解できる集大成となった。



若い二人



女王

Ⅲ. 調査研究事業

1. 但東町指定文化財 赤坂古墳発掘調査

(1) 調査の経過

赤坂古墳第1号墳は町指定文化財として登録されているが、調査前は開口した横穴式石室が国道426号線沿いに露出したまま放置されている状態だった。墳丘については国道の工事等によりすでに消失したものである。兵庫県教育委員会文化財室からは崩落する危険性があると指摘を受けており、網などを張って立ち入りできない措置を講じていた。

横穴式石室は既に奥壁と天井石（入口部分）が破壊され、その巨大な天井石1枚が水田に崩落し、半裁して重機で石室脇に置かれていた。石室内部は2/3までが流入した土砂とゴミの投棄で埋没しており、遺物等の検出は認められなかった。地域の伝承として大正時代末から昭和初期にかけて鉄刀が出土したと伝えられていた。

このような状況から赤坂古墳第1号墳の発掘調査は短期間で終了するものと理解していた。表土を剥いだ段階で装飾付須恵器の一部が検出され、床面はほとんど破壊から免れており、良好な形で副葬品が検出された。

発掘された横穴式石室は崩落する危険性が高く、調査終了後速やかに石室を解体して博物館敷地内へ運んだ。調査結果を踏まえ、石室を組み立てた後に墳丘を復元して芝土を張った。今後は博物館の屋外展示として活用される予定である。

(2) 調査要綱

- | | |
|---------|---|
| ① 調査目的 | 移設復元に伴う発掘調査 |
| ② 調査期間 | 平成15年10月27日～平成15年12月26日 |
| ③ 調査地 | 但東町畑字大野山 |
| ④ 調査主体 | 但東町教育委員会 |
| ⑤ 調査員 | 但東町文化財調査委員会
宇治田透玄（会長）・武知憲男
森脇博亮・兼井通夫・小田博一 |
| ⑥ 調査事務局 | 日本・モンゴル民族博物館
金津匡伸・大岸勝也 |
| ⑦ 調査協力 | 井上昭（地権者）
豊岡市出土文化財管理センター |

(3) 調査概要

赤坂古墳群は出石郡但東町畑字大野山の国道426号沿いに位置し、第1号墳から第3号墳まで3基が群集しているものである。今回、調査を実施したのは赤坂古墳第1号墳で、急傾斜面に隣接して横穴式石室が露出している状態であった。

発掘調査の結果、南北12m、東西10mの楕円形をした小型の円墳であることが判明した。調査当初から石室の入口や天井石の一部が落ちていたこともあり、古い時代に盗掘されているものと予想されたが、石室床面において良好な状態で副葬された土器や刀、馬具、耳環などが検出された。時代は古墳時代終末期の7世紀半ばから後半にかけて築かれたものである。

石室（無袖式）の全長7.9m、奥壁幅1.9m、奥壁高さ1.92mを測り、小石を敷いた部分は長さ2.3m、幅1.9mを測る。石室内部は小石を敷いた奥室と仕切り石で一段低くなった前室からなり、入口には人頭大の石で閉めた痕跡が確認された。

奥室からは金属製品として大小の刀、鏢、鏃などの武具をはじめとして、石枕のそばから耳環1個が出土している。土器は土師器1点以外はすべて須恵器で、杯身、杯蓋、杯、高杯、甗、短頸壺、平瓶、台付盤などが床面から出土している。前室からは装飾付須恵器、壺、杯身、杯蓋、高杯、杯、短頸壺が出土している。閉塞石の周囲からも須恵器杯、蓋、高杯、甗などが出土している。奥室および前室から出土した遺物は、いずれも7世紀後半に位置付けられるものばかりである。石室の入口付近では8世紀の須恵器が出土している。

注目されるものに遺体の頭部をのせる石枕の存在である。奥室の左側壁面に面し、80cmを超える刀（切先は奥壁方向）、耳環、玄室内の遺物出土状況から判断して、石枕と考えられる自然石が礫床面に張り付くよう検出された。鉄釘が発見されないことから棺は使用されなかったものと考えられる。自然石を利用した枕の存在から、礫床の上に敷物か何かに寝かされたものと考えられる。埋葬頭位は入口側を向く。土師器や須恵器などの土器を転用した枕や石製枕などの報告は比較的多くあるが、7世紀後半まで利用された報告はない。赤坂古墳の自然石を利用した石枕の存在は当地方の伝統的規範が古墳時代終末期まで下ることが知られる。



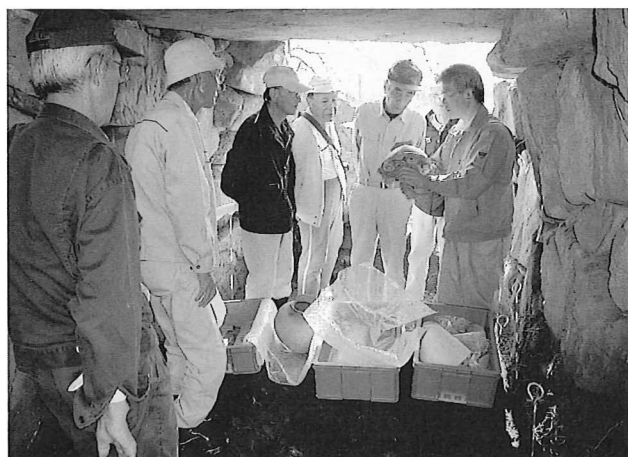
古墳全景



現地説明会



遺物出土状況



調査風景

(4) 装飾付須恵器

奥室の手前から出土した装飾付須恵器は、朝鮮半島に多い装飾土器の影響を受けていると考えられるが、これらは当時の人々の考え方や信仰をうかがい知ることができて興味深い。

本例は壺の肩部に精巧なミニチュアの長頸壺や高杯が貼り付けられた装飾須恵器である。ミニチュア品を付けることで、捧げ物の機能をいっそう強調したものと考えられる。壺の底は当初から作られておらず、副葬するために特別に作られたものである。

兵庫県内で出土している装飾須恵器中で最も新しい7世紀後半に位置づけられる資料である。出土状態が明確で遺存状態もよく、装飾付須恵器の代表的な資料として学術的価値が高く、この古墳に葬られた人の地位や立場を解明する有力な手がかりとなる。

但馬管内では装飾付須恵器が2点出土しているが、いずれも破片のみで全体像が分からない。城崎町ケゴヤ古墳から墳丘上の古墳築造期(6世紀後半)のものと考えられる破片が出土している。また、養父町の大藪古墳群からも装飾付須恵器に付いた馬の小像が出土している。



出土した装飾付須恵器



子器拡大



巨樹・古木の調査（佐々木・大崎神社）

(5) ま と め

赤坂古墳第1号墳は7世紀第3四半期(650～675年)の古墳時代終末期に位置付けられ、3基からなる群集墳であり、小型の墳丘を持ち、主体部として無袖式の横穴式石室を有するものである。当地方に置ける古墳の終焉を考える上で重要な資料を提示し得たと考えられる。また、但馬管内での移設復元例は初めて（現地復元例は八鹿町箕谷古墳）のケースとなり、文化財の保存事業としても特筆されるものである。

2. 文化財調査委員会の開催

第1回文化財調査委員会では、博物館運営状況等の報告と、平成15年度における文化財調査並びに活動計画が協議された。特に、赤坂古墳については兵庫県文化財指導員から崩落の危険性が指摘されており、調査・移設保存の方向で協議された。

第2回文化財調査委員会では、当面の諸報告に続き町内にある巨木・古木などの町文化財指定物件について協議された。

第3回文化財調査委員会では、資母地区の文化財パトロールの後、口藤より申し出のあった比遅神社の文化財指定について協議されたが、他社と比べると時代的にも新しく指定するには説得力がないとして更に調査研究が必要との意見の一致をみた。

第4回文化財調査委員会では、合橋並びに高橋地区の文化財パトロールの中で、久畑地内における公共工事（県砂防工事・町公園計画）に伴う県指定「一宮神社のケヤキ群生林」の保護について経過を説明した。

研修については、姫路市内の博物館・美術館で実施し、中でも日本画家平山郁夫氏のコレクションであるシルクロードの古美術・歴史、学術資料に触れることができた。

[文化財調査委員会（5名）]

会 長	宇治田透玄	（昭和55年4月～現在）
会長代理	武知 憲 男	（昭和63年4月～現在）
	森 脇 博 亮	（平成4年4月～現在）
	兼 井 通 夫	（平成6年4月～現在）
	小 田 博 一	（平成6年4月～現在）

IV. 資料収集保存事業

当館が所蔵している資料は約2万点以上に及ぶ国内外の資料で構成されている。寄贈されたモンゴル民族資料5千点、考古資料5千点を基礎資料としながら、但東町民俗資料館が収集保管してきた資料、また個人が大切に保管されていたもので寄贈又は寄託いただいたもの、モンゴル国内や全国各地から寄贈いただいた資料を収蔵している。

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。当館は郷土やモンゴルの自然や歴史・文化に関する資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として郷土やモンゴルに関する資料をも収集対象としている。資料の収集は、寄贈・寄託・購入・採集・交換など、さまざまな方法で行っている。

1. 寄 贈

(1) 寄贈資料（敬称略）

受 入 日	氏 名	住 所	資 料 名	点数
平成15年6月6日	上 垣 絵里子	但東町	鍬	1
7月6日	岡 村 憲 次	姫路市広畑	プレーリードッグ	1
7月14日	勝 村 直 樹	大阪市生野区	モンゴル 喫煙具一式 ネパール 軍刀（クリック刀） モンゴル銀杯（布の袋入り）	1 1 1
8月18日	内 田 敦 之	豊中市新千里	CD「翼をもったモリンホール」	1
11月27日	京 極 憲 州	但東町	反日遊撃隊所持革命赤旗（1/2流）	1
12月9日	阪 本 光 弘	奈良県王子町	モンゴル岩塩塊（オヴス県産）	1
平成16年1月22日	西 村 幹 也	神奈川県相模原市	CD-R モンゴル国土全図	1
2月3日	スーチンドロン	篠山市遠方	CD「百年牧歌」・他	1

(2) 図書寄贈者一覧（順不同・敬称略）

【個人】

今岡良子（大阪府堺市） 片寄真木子（宝塚市）
 羽尻司郎（但東町） 畑 春男（篠山市）
 細井千裕（京都府加悦町） 廣田昌希（京都市）
 矢野宗深（但東町） 楊 海英（静岡市）
 増田 格（神戸市） 新宮 晋（三田市）

【団体】

【兵庫県内】

兵庫県教育委員会、神戸商船大学、神戸大学文学部、辰馬考古資料館、大手前大学史学研究所、園田学園女子大学歴史民俗学会、人と自然の博物館、兵庫県立歴史博物館友の会、姫路市教育委員会、姫路市書写の里美術工芸館、明石市立文化博物館、加古川市教育委員会、川西市教育委員会、加西市教育委員会、三木市立堀光美術館、にしわき経緯度地球科学館、加美町教育委員会、揖保川町教育委員会、播磨町郷土資料館、加東郡教育委員会、新宮町教育委員会、太子町立歴史資料館、竜野市立歴史文化資料館、赤穂市教育委員会、赤穂市立歴史博物館、赤穂市立美術工芸館 田淵記念館、佐用郡教育委員会、朝来町教育委員会、あさご芸術の森美術館、関宮町教育委員会、豊岡市教育委員会、北但消防本部、八鹿町教育委員会、植村直己冒険館、出石町教育委員会、竹野町教育委員会、美方町文化財審議委員会、家島町教育委員会、東浦町教育委員会、宗教法人 岩上神社、但東北中学校記念誌編集委員会

【京都府】

京都市考古資料館、京都嵯峨芸術大学付属博物館、

城陽市歴史民俗資料館、福知山市教育委員会、大山崎町歴史資料館、加悦町江山文庫、大江町教育委員会、野田川町教育委員会、網野町教育委員会、大宮町教育委員会、丹後町教育委員会

【大阪府】

大阪市立自然史博物館

【その他】

（財）アイヌ文化振興・研究推進機構、北海道立北方民族博物館、旭川市博物館、八戸市博物館、東通村教育委員会、村田町教育委員会、文化庁文化財部記念物課、国立民族学博物館、滋賀県立大学、和歌山県教育委員会、天理参考館、奈良文化財研究所、徳島県立博物館

2. 購 入 資 料

- ① モンゴルの子供用ブーツ
- ② 常設展示用食品サンプル
- ③ 赤花橋本家古文書一括

3. 資 料 の 貸 出

- ① 神戸新聞総合出版センター
（平成15年6月4日～7月5日）
博物館外観写真1枚
- ② (株) JTBプラネット
（平成15年7月22日～9月4日）
博物館内・外観写真2枚・CD1枚

- ③ 豊岡市立豊岡南中学校
(平成15年9月28日～10月3日)
民族衣装 子供用5着・男性用1着・女性用2着・
帯5点・靴1点・帽子5点・ベルト1点・
パネル一式・通貨一式・マンガ本1冊・
馬頭琴1点・シャガイー式・ゲル模型1点・
食品サンプル3セット・杓子1点・銅盃2点
- ④ 兵庫県広報課
(平成15年10月7日～10月30日)
民族衣装展示写真1枚
- ⑤ NPO 日本モンゴル白樺協会
(平成15年10月10日～10月13日)
ゲルー式
- ⑥ 尼崎市浦風小学校
(平成15年10月24日～11月2日)
民族衣装 子供用4着・男性用1着・女性用1着・
帯5点・靴1点・帽子5点・ベルト1点・
馬頭琴1点・杓子1点・ツアツアル1点・
岩塩2点・銅盃1点・知恵の輪1点・
骨製ブンブンゴマ5点・シャガイー式・

食品サンプル22点・CD1点・通貨一式・
ゲル模型1点

- ⑦ 大阪市ゆとりとみどり振興局
(平成15年12月14日～12月27日)
ゲルー式
- ⑧ 東京法令出版(株)
(平成16年1月13日～2月29日)
博物館外観・モンゴル友好使節団写真2枚
- ⑨ 但東町職員組合
(平成16年2月16日～2月23日)
民族衣装1着・帽子1点

4. 資料の薫蒸

平成15年度は年2回、害虫駆除センター・クリーン
有限会社にて全館を対象にピレスロイド系殺虫剤、有
機リン系の殺虫剤を使用し、殺虫・防虫処理をした。

また、収蔵庫内においても年2回蒸散剤を設置し殺
虫・防虫処理を実施している。

実施年月日	5月13日	8月5日	10月21日	12月5日
館内	乳剤噴霧		乳剤噴霧	
収蔵庫		蒸散剤設置		蒸散剤設置

5. 文化財標柱設置

平成15年度は、新たに文化財指定された大河内地区
にある「河ノ辺の大桜」(薬王寺生産森林組合)につい
て登山口(楽音寺参道)と現地の2ヶ所に解説板を設
置した。



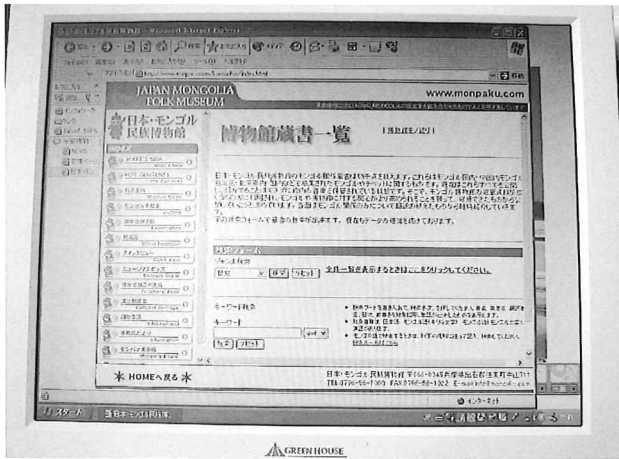
登山口解説板(楽音寺参道)



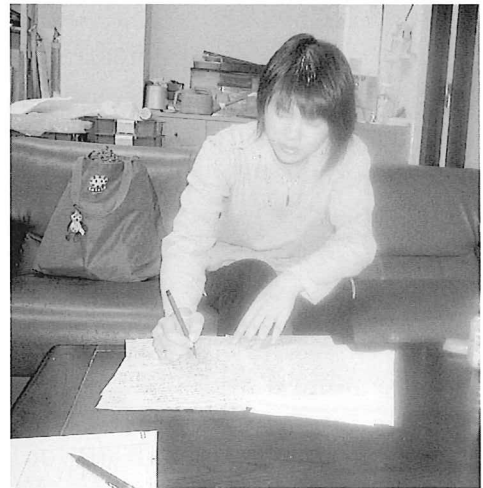
現地解説板

6. 蔵書の目録翻訳整理

当館が所蔵しているモンゴル関係の書籍約千点の目
録翻訳整理作業を、平成15年6月より週2日京都府加
悦町の細井千裕を日々雇用し実施した。翻訳整理した
蔵書目録は、収録を終えたものから随時ホームページ
にて公開している。



ホームページでの公開



翻訳作業

V. 普及教育事業

1. 出前授業

出前授業は、学校教育における総合学習を積極的に支援することを目的としたもので、当館では博物館の収蔵品を使い、児童らに見て、触れて感じてもらう授業として平成12年度から実施している。博物館が学校に出向くことによって、児童らに資料の活用の仕方や、学ぶ意欲を高めてもらうのが大きなねらいである。

平成15年度は、昨年度に比べ希望校が大幅に増え、近隣市町をはじめ県内各地の小・中学校に招かれた。民族楽器やパネルを使った授業は反響も大きく、博物館をより身近に感じてもらうため、今後も積極的に展開する。

- | | |
|--|---|
| ① 5月15日(木) 一宮町立郡家小学校
町内2小学校 50名 (金津) | ⑧ 10月9日(木) 三木市立緑ヶ丘東小学校
2年生 94名 (金津) |
| ② 5月15日(木) 一宮町ふるさとセンター
町内4小学校 110名 (金津) | ⑨ 10月14日(火) 宮津市立宮津小学校
6年生 106名 (金津) |
| ③ 6月9日(月) 但東北中学校
2年生 23名 (金津) | ⑩ 10月24日(金) 尼崎市立浦風小学校
3年生 59名 (大岸) |
| ④ 6月11日(水) 但東北中学校
3年生 24名 (文化財調査委員 森脇) | ⑪ 11月11日(火) 神戸市立鹿の子台小学校
2年生 183名 (金津) |
| ⑤ 6月16日(月) 但東北中学校
2年生 23名 (文化財調査委員 宇治田) | ⑫ 11月25日(火) 養父町立小学校連合
町内5小学校2年生 73名 (渡辺) |
| ⑥ 6月18日(水) 但東北中学校
3年生 24名 (文化財調査委員 武知) | ⑬ 12月11日(木) 山東町立栗鹿小学校
2年生 10名 (渡辺) |
| ⑦ 9月26日(金) 香住町立香住第一中学校
2年生 140名 (金津) | ⑭ 12月18日(木) 山東町立梁瀬小学校
2年生 45名 (柴田) |
| | ⑮ 1月15日(木) 神戸市立美賀多台小学校
2年生 127名 (金津) |
| | ⑯ 1月22日(木) 豊岡市立八条小学校
2年生 50名 (柴田) |
| | ⑰ 1月27日(火) 豊岡市立奈佐小学校
2年生 8名 (渡辺) |
| | ⑱ 1月30日(金) 和田山町立東河小学校
2年生 17名 (柴田) |
| | ⑲ 2月5日(木) 和田山町立糸井小学校
2年生 37名 (渡辺) |
| | ⑳ 2月10日(火) 姫路市立妻鹿小学校
2年生 49名 (金津) |
| | ㉑ 2月13日(金) 猪名川町立白金小学校
2年生 90名 (金津) |

- ㉒ 2月16日(月) 神崎町立大山小学校
1～2年生 33名 (渡辺)
- ㉓ 2月17日(火) 北淡町立室津小学校
1～6年生 105名 (金津)
- ㉔ 2月23日(月) 猪名川町立松尾台小学校
2年生 67名 (金津)
- ㉕ 2月23日(月) 猪名川町立猪名川小学校
2年生 79名 (金津)
- ㉖ 2月27日(金) 姫路市立余部小学校
2年生 54名 (山本)
- ㉗ 3月1日(月) 西宮市立高木小学校
2年生 131名 (金津)
- ㉘ 3月2日(火) 久美浜町立川上小学校
2年生 17名 (渡辺)
- ㉙ 3月4日(木) 香住町立香住小学校
2年生 97名 (山本・柴田)
- ㉚ 3月5日(金) 但東町立合橋小学校
2年生 30名 (山本)
- ㉛ 3月8日(月) 野田川町立山田小学校
2年生 21名 (渡辺)
- ㉜ 3月9日(火) 豊岡市立新田小学校
2年生 41名 (柴田)
- ㉝ 3月12日(金) 弥栄町立溝谷小学校
2年生 13名 (渡辺)
- ㉞ 3月12日(金) 弥栄町立吉野小学校
2年生 17名 (渡辺)
- ㉟ 3月16日(火) 大宮町立大宮第二小学校
2年生 27名 (渡辺)
- ㊱ 3月18日(木) 西宮市立高須西小学校
2年生 74名 (金津・山本)



出前授業教材セット

2. 普及事業

(1) 農村歌舞伎舞台を使った劇団「ささゆり」の公演

但東町は、県下で最も農村歌舞伎舞台が多く現存する。18棟の中には老朽化により傷みの激しいものも少なくない。これら農村歌舞伎舞台は、かつて農村の文化施設であり地方巡業する劇団を呼ぶなど村芝居が盛んに行われた。

この貴重な地域資源である農村歌舞伎舞台も放置すればいずれ崩壊することを免れることは困難である。文化財への認識を深め保存と活用について意識の高揚を促すため、農村歌舞伎舞台を使った劇団「ささゆり」の公演を昨年度に引き続き、町内3会場で開催し大きな反響を受けた。

アンケートの結果、今後も継続してほしいとする声が大変多く、新しい文化財保護と活用について示唆するものがあった。

今年度は、伝統文化こども教室事業と共催し、登場人物に子どもたちも舞台体験することができた。

7月26日(土)	虫生・安牟加神社	86人
8月17日(土)	畑・三柱神社	90人
9月6日(土)	平田・春日神社	125人



出前授業の様子(西宮市立高須西小学校)



農村歌舞伎舞台公演



農村歌舞伎舞台公演

(2) 博物館教室

期 日	教 室 内 容	講 師 名	参加者
5月10日	母の日プレゼント(七宝焼き)づくり	柴 田 明 子	5
7月11日 25日	ビール作りに挑戦(仕込み) (二次発酵)	大 岸 勝 也 高 木 義 彦	8
7月20日	縄文楽器をつくろう	大 岸 勝 也	10
7月22日	オリジナルグラスをつくろう	大 岸 勝 也	17
7月24日	馬頭琴コンサート	タ イ ピ ン	24
7月25日	茶 道 に チ ャ レ ン ジ	大 石 朝 美	17
7月26日	七 宝 焼 き 教 室	柴 田 明 子	12
7月27日 8月12日	縄文式土器をつくろう 野 焼 き	金 津 匡 伸	4 1
7月31日	勾玉ペンダントづくり	柴 田 明 子	10
8月1日	馬頭琴コンサート	タ イ ピ ン	6
8月4日	真鍮キーホルダーづくり	高 木 義 彦	17
8月9日	オルガンコンサート	高 木 紗 織	17
8月9日	シルバーアクセサリーをつくろう	大 岸 勝 也	10
8月10日	縄文時代の料理教室	渡 辺 律 子	9
8月12日	こわ〜いお話(民話)ときもだめし	淀 逸 郎	25
8月16日	オルガンコンサート	高 木 紗 織	18
8月19日	縄文クッキーをつくってたべよう	渡 辺 律 子	9
8月21日	茶 道 に チ ャ レ ン ジ	大 石 朝 美	11
8月22日	ぼくらミュージアム探検隊	大 岸 勝 也・他	29
8月26日	石器づくりに挑戦	金 津 匡 伸	3
12月6日	版 画 教 室	高 木 義 彦	3
12月20日	茶 道 に チ ャ レ ン ジ	大 石 朝 美	5
1月24日	茶 道 に チ ャ レ ン ジ	大 石 朝 美	7
1月31日	華 道 に 挑 戦	西 村 強 甫	4
2月15日	カマクラブづくり	山 本 龍 馬・他	120
合 計	27回		401



母の日プレゼント（七宝焼き）



写真に収めて博物館資料の整理をする中学生



茶道体験



写真に収めて博物館資料の整理をする中学生

3. 「トライやるウィーク」の受入

兵庫県教育委員会の事業として中学生の地域体験学習「トライやるウィーク」で生徒の希望に応じて博物館体験を6月2日(月)から6日(金)までの5日間受け入れた。

本事業は中学2年生が1週間、学校を離れて地域社会での実体験を通して学習する試みとして平成10年度より始まっている。

博物館体験は但東中学校2名（森博美、大月菜摘）、但東北中学校3名（山本祐樹、国枝麻衣、松本彩）の5名を受け入れた。博物館での活動は、開館前の館内外の清掃・プレーリードッグやヤギの世話・館内案内補助・竪穴式住居の内部造作・縄文の食事作りなどを体験した。

【参加者の感想】

◎ 私は、日本モンゴル民族博物館にいて本当によかったと思います。

モンゴル博物館では、いろいろなことを教わりました。動物の世話の仕方、展示物の整理の仕方、竪穴式住居などとても勉強になりました。中でも一番勉強になったのは、お客様を案内したことです。私は、人を相手に話をすることがとても苦手なのでその苦手をなくしていこうと思いました。1週間いろいろご迷惑をおかけしたこともありましたが、仕事の大変さや厳しさを教わって、働いている人達は苦勞しているんだなと思いました。短い間でしたがお忙しい中本当にありがとうございました。

◎ トライやるウィーク中はどうもお世話になりました。おかげさまで、1週間とても楽しく過ごさせていただきました。

最終日「視覚障害」の方がこられたとき、何をしたらいいのか分からないなりに頑張りました。すると、たった一言「ありがとう」といわれ、とてもうれしか

ったです。私は博物館で“人と人のつながりの大切さ”など、とても良いことを体験させていただきました。この1週間とても充実していて満足しています。ご迷惑をおかけしましたが、本当にありがとうございました。

◎ 5日間お世話になりました。無事にトライやるウィークも終りちょっとホッとしました。初日は緊張して何もできなくて職員の方を困らせてばかりで本当にすみませんでした。初日を終えて、明日からは積極的にいこうと思いました。でも、言われないとできないというところがあり、そこが私の悪いところだったと思います。

最終日は目に障害をもった方の館内案内をしました。質問されたことは分かりやすく答えられていた職員の方はすごいと思いました。外仕事や館内の仕事、体力のいる仕事それぞれでいねいにしないといけないことなど、トライやるウィークで学んだことは、仕事はあまくない、みんなそれぞれ大変なんだと学びました。

◎ トライやるウィークをモンゴル博物館でしようと思ったときは、中での作業ばかりだと思っていました。でも、予定表を見ると外の作業のほうが多かったので少し驚きました。作業は昔の人たちのやっていたことが多く、今まで体験したことのないことばかりでした。中でも縄文時代の料理は塩だけの味つけだったり、木で火をたいたりしたことのないことが体験でき楽しかったです。

5日間、モンゴル博物館の皆様には大変お世話になりました。一つ一つの作業を私たちのために、ていねいに教えてくださいました。そのおかげで5日間とてもよい勉強になりました。これからは、モンゴル博物館で勉強したことを生かしてがんばりたいと思います。

◎ トライやるウィーク5日間いろいろありがとうございました。ヤギの世話はちょっとくさかったけどいい体験になりました。縄文土器のなべで料理をして、おいしいかわくわくしましたが、おいしくなかったです。でも、縄文なべの料理はとてもよかった気がします。

4. 講師派遣

出前授業とは別に館外から依頼を受けて行った講師派遣を、月日・担当者・内容(依頼者)の順に記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

【平成15年度】

- ① 5月14日 金津匡伸 兵庫県淡路すこやか大学
『モンゴルの民に学ぶ』
- ② 5月14日 金津匡伸 一宮公民館いちのみや学園
『モンゴルの民に学ぶ』
- ③ 5月20日 金津匡伸 但東町国際交流協会
『モンゴル最新情報』
- ④ 5月30日 金津匡伸 但馬小中学校事務研究会
『地方に暮らして世界を視る』
- ⑤ 6月24日 金津匡伸 兵庫県いなみ野学園大学講座
『モンゴルの過去と現在』
- ⑥ 7月5日 金津匡伸 兵庫県教育委員会文化財室
『第3回兵庫県ヘリテージ・マネージャー
研修基調講演』
- ⑦ 8月7日 金津匡伸 小野市きすみの現代セミナー
『モンゴルの過去と現在』
- ⑧ 8月22日 金津匡伸 豊岡市教育研究会・国際交流部会
『モンゴルの風土にふれて』
- ⑨ 10月26日 金津匡伸 兵庫県立八鹿高等学校
『国際理解と人権
モンゴルとの交流を通して』
- ⑩ 11月19日 金津匡伸 但東町教育研究会 但東学C
『赤坂古墳について』
- ⑪ 1月11日 金津匡伸 北淡活断層シンポジウム2004
『シンポジウム 地域にとっての記念物』
- ⑫ 1月21日 金津匡伸 森林再生国際協力推進フォーラム
『モンゴルの生活・文化と国際交流』
- ⑬ 2月20日 金津匡伸 北はりまハイランド協議会
『まちづくり』
- ⑭ 3月10日 金津匡伸 兵庫県立出石高等学校
『人権講演 地方に暮らして世界を視る』

5. 出版活動

館外からの原稿依頼を受けて行った雑誌や機関紙等を記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

- ① 平成16年1月9日 金津匡伸
『大草原の小さな家 神戸新聞 随想』
- ② 平成16年1月27日 金津匡伸
『温水洗浄便所 神戸新聞 随想』
- ③ 平成16年2月12日 金津匡伸
『我が家はバイリンガル 神戸新聞 随想』
- ④ 平成16年2月27日 金津匡伸
『足を知る 神戸新聞 随想』

- ⑤ 平成16年2月28日 金津匡伸
【真の国際交流 但馬日中交流協会】
- ⑥ 平成16年3月15日 金津匡伸
【企画展に寄せて 京都嵯峨芸術大学付属博物館】
- ⑦ 平成16年3月16日 金津匡伸
【少年の夢 神戸新聞 随想】
- ⑧ 平成16年3月31日 金津匡伸
【美しい芝生の中の雑草 神戸新聞 随想】

6. ホームページのリニューアル

近年、急速に発展している高度情報化社会にあつて、当館と利用者の架け橋として、インターネットを利用し、博物館情報を提供している。この活動は、利用者の皆様に親しまれる博物館として、より一層身近に感じていただけるよう、平成11年8月に開設した。このホームページ開設にあたり、兵庫県国際交流協会からパソコン一式寄贈を受けている。今年度はホームページをリニューアルし当館が所蔵する資料の紹介、利用案内、企画展や講演会などの催し物情報に加え但東町の概要、宿泊や食事などのふれあいスポットなど幅広い最新の情報を提供している。職員による手作りのため決して満足いただけるものではないが、更新を重ねながら情報を提供していきたい。

博物館公式ホームページ
<http://www.monpaku.com/>
 博物館E-mailアドレス
info@monpaku.com

7. 子ども放送局

衛星通信を利用した教育情報通信ネットワークシステム（エル・ネット）子ども放送局受信設備を平成11年度文部省の国庫補助事業である「学習活動支援設備整備事業」により設置した。放映は従来毎月第2・4土曜日のみであったが、学校週5日制の実施に伴い毎土曜日に放映されることになった。このほか、教育関係者を対象にした研修や事業説明などに活用した。また、各大学のオープンカレッジなど番組の内容も充実された。

8. 博物館学芸員実習生の受入

今回で4回目となる博物館学芸員実習生の受入は、京都橘女子大学文学部歴史学科の学生、井瀬由美子を9月11日から14日まで博物館業務の修得を目的に受入れた。指導内容は、開館準備、受付補助、ホームページの更新、資料の画像処理、文化財の調査などを指導した。

VI. 国際交流事業

1. モンゴル国との国際交流

隔年で実施している本町国際交流協会（福田芳郎会長）主催の使節団派遣事業はSARS（新型肺炎）の流行が懸念されることから派遣事業を中止し、代る事業として中学生を中心とした国際交流イベント『モンゴルまるかじり』を10月4日・5日の両日、当館周辺において開催した。主な催しは、二人目の駐日大使としてバトジャルガル駐日モンゴル特命全権大使を迎え、関西圏にモンゴルから留学している学生32名を本町に招待し中学生との交流会、モンゴルでキャンプを体験した大学生による意見交換、草原の音色を奏でる馬頭琴や、黒坂黒太郎氏のコカリナコンサート、民族衣装の試着、モンゴルの料理を振舞う食の交流会などモンゴルの生活と文化をアピールした。

また、駐日大使に博物館内での募金の浄財 100,000

円をモンゴルの恵まれない子どもたちへの支援として手交した。



芝生広場でゲームを楽しむ



意見交換



意見交換

2. イベントへの協力

本年は、日本とモンゴルの国交樹立30周年にあたり

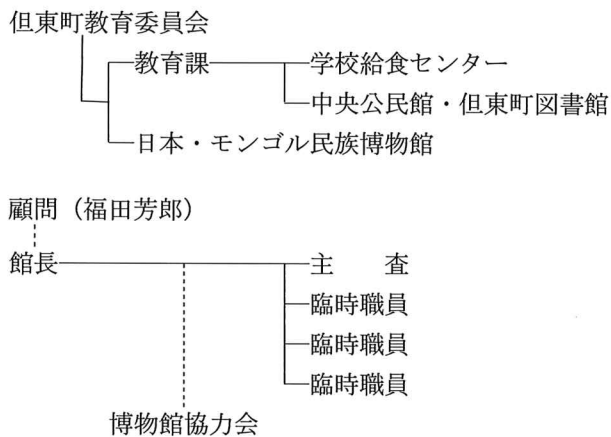
大阪で開催された、日本・モンゴル国交樹立30周年記念イベントに絵画5点の貸出しをした。

Ⅶ. 管理運営

1. 組織・職員（平成16年3月31日現在）

臨時職員 柴田明子（平成13年4月～）

(1) 組織



(2) 職員

館長	金津匡伸（平成8年11月～）
主査	大岸勝也（平成8年11月～ 平成15年12月） ——北但合併協議会事務局へ異動
主事	山本龍馬（平成16年1月～） ——但東町中央公民館より異動
臨時職員	高木義彦（平成13年4月～）
臨時職員	渡辺律子（平成8年11月～）

(3) 事務分掌

金津匡伸	博物館活動・事業の推進、博物館の管理運営、博物館の普及・広報活動、資料の収集・保管、資料の展示（常設・企画）、資料の調査研究
大岸勝也・山本龍馬	博物館活動（講習会・教室・展示会等）、各種団体・機関との連絡調整、公民館との連携活動、博物館協力会、国際交流
高木義彦	博物館活動（講習会、教室、展示会等）、文化財調査委員会、民俗資料・民俗資料館の管理運営
渡辺律子	歳入歳出予算及び経理、博物館の庶務
柴田明子	利用者の受付・案内、公文書の経理、館内清掃に関すること

2. 予算の概要（決算額）

単位：千円（百円以下四捨五入）

[博物館費]	44,267
① 給料(2人)	7,901
② 職員手当等	14,052(管理職手当 481、扶養手当 549、)

- 調整手当 447、通勤手当 429、時間外勤務手当 732、
期末手当 3,997、勤勉手当 1,111、寒冷地手当 179、
住居手当 212、児童手当 40、嘱託手当 5,875)
- ③ 共 済 費 1,610
④ 賃 金 487
⑤ 旅 費 509
⑥ 需 用 費 9,576(消耗品費 2,925、印刷製本費 713、
光熱水費 5,938)
⑦ 役 務 費 658
⑧ 委 託 料 2,098 (警備保障委託費 276、電気保
安点検料 207、資料燻蒸委託料 212、ガラス清掃委託
料 184、フロア清掃委託料 200、軒先清掃委託料 141、
自動ドア点検委託料 120、シルバー人材センター委託
料 300、ホームページ作成業務委託料 458)
⑨ 使用料及び賃借料 1,332 (使用料 1,332)
⑩ 工事請負費 599 (外壁補修工事 599)
⑪ 備品購入費 2,111
⑫ 負 担 金 36 (県博物館協会 10、但馬地域博
物館連絡会 20、テレビ組合 6)
⑬ 公 課 費 19 (重量税 19)
⑭ 企 画 展 費 2,495 (需用費 1,099、役務費 50、
備品購入費 1,346)
⑮ 活 動 費 784 (報償費 202、需用費 582)

[文化財費] 6,307

- ① 文化財調査委員会費 260 (報酬 228、旅費 13、
需用費 19)
② 文化財調査保存費 846 (報償費 120、旅費 48、
需用費 678)
③ 埋蔵文化財調査費 0 (需用費 0、委託料 0)
④ 農村歌舞伎舞台活用事業費 300 (報償費 300)
⑤ 赤坂古墳移設事業費 4,901 (需用費 46、委託料 545、
使用料 10、工事請負費 4,300)

3. 利用状況

平成8年11月3日開館して7年を経過し、累計では
平成16年3月末で228,141名の方に利用いただいた。
平成15年度の利用状況は次のとおりである。

利用者数は24,532名で前年度比6,515名の減である。
これは博物館周辺でのイベントが無かったことと、利
用者の減少傾向によるものと考えられる。利用者24,532
名の内訳は、有料が13,631名、無料が10,901名である。
但東町民の博物館利用は4,183名で全体の17%であり、
前年度より町民の利用がやや増となった。

【平成8年度 (開館日：123日)】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数								24	23	25	24	27	123
計								7,125	1,581	1,462	1,759	3,876	15,803
1日平均								296	69	58	73	144	128

【平成9年度 (開館日：307日)】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	27	26	26	27	26	26	26	23	24	24	27	307
計	5,853	4,796	3,891	3,529	4,500	2,768	2,848	3,553	1,564	1,303	1,556	2,595	38,738
1日平均	234	178	150	136	167	106	110	137	67	54	65	96	126

【平成10年度 (開館日：307日)】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	27	27	27	23	27	25	27	27	23	24	24	26	307
計	6,334	2,796	1,740	1,741	3,028	2,068	2,254	3,093	1,316	2,040	2,670	1,951	31,034
1日平均	235	104	67	76	112	83	83	119	57	85	111	75	101

【平成11年度（開館日：308日）】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	27	27	25	27	27	24	27	26	23	24	25	26	308
計	6,136	2,633	1,828	1,870	3,577	1,428	2,299	2,193	1,105	1,134	1,077	1,442	26,722
1日平均	227	98	73	69	132	60	85	84	48	47	43	55	87

【平成12年度（開館日：307日）】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	28	27	26	27	26	26	27	23	23	23	24	27	307
計	7,615	2,833	1,854	1,869	3,035	1,938	2,578	2,029	1,397	735	1,632	1,662	29,178
1日平均	272	105	71	69	117	75	96	88	61	32	68	62	95

【平成13年度（開館日：308日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	460	405	426	415	630	496	453	376	143	275	340	269	4,688
一般	4,831	1,495	1,166	665	1,200	1,537	1,216	1,665	977	726	703	1,180	17,361
高大	198	34	13	7	49	12	24	193	41	2	10	24	607
小中	514	72	27	30	187	100	40	56	47	47	35	72	1,227
その他	2,537	703	445	315	545	420	516	446	437	279	213	348	7,204
計	8,540	2,709	2,077	1,432	2,611	2,565	2,249	2,736	1,645	1,329	1,301	1,893	31,087
1日平均	316	104	80	53	100	99	87	105	72	55	54	70	101

【平成14年度（開館日：310日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	478	411	268	451	698	354	276	243	153	125	276	212	3,945
一般	2,560	1,465	806	653	1,194	921	982	1,587	829	444	930	909	13,280
高大	35	27	7	22	70	25	151	12	14	3	6	41	413
小中	447	105	22	54	195	43	22	57	49	20	72	120	1,206
その他	1,786	652	327	255	626	349	6,274	449	301	151	408	625	12,203
計	5,306	2,660	1,430	1,435	2,783	1,692	7,705	2,348	1,346	743	1,692	1,907	31,047
1日平均	189	102	55	55	99	65	285	90	58	32	70	70	100

【平成15年度（開館日：308日）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町 民	211	238	413	422	620	207	702	349	173	167	295	386	4,183
一 般	2,657	1,468	952	633	1,230	889	1,152	1,072	467	385	670	685	12,260
高 大	223	23	10	12	74	8	6	8	9	7	34	37	451
小 中	275	77	24	50	197	35	17	41	33	16	54	101	920
そ の 他	1,915	530	623	441	502	332	502	435	210	226	623	379	6,718
計	5,281	2,336	2,022	1,558	2,623	1,471	2,379	1,905	892	801	1,676	1,588	24,532
1日平均	196	87	78	60	98	57	92	74	39	35	67	62	80

4. 施設管理

員OBが顧問となる役員構成になっている。平成15年の活動内容は以下のとおりである。

(1) 芝生管理

敷地内に広がる芝生管理を但東町シルバー人材センターに年間委託しているが、雑草種子の飛来や苔の繁茂、排水が悪く芝自体の老朽化が進んでいる。

◎平成15年役員

（任期：平成15年1月1日～12月31日）

会 長 加藤 泰 啓

常任理事 塩川 剛 三

理 事 13名 顧 問 12名

(2) 補修工事

① A棟外壁塗装工事

建築後7年が経過、外壁の劣化が激しく今回雨漏りの著しいA棟西側のクラックを下地処理し塗装を行った。

◎平成15年活動内容

【平成15年度】

2月11日 カマクラづくり教室協賛

3月11日 役員会

3月30日 博物館前販売所開店

4月12日～20日

チューリップ祭り協賛販売所開店

5月11日 カンナ植え付け

7月6日 如布区博物館芝生広場雑草除去作業

8月1日 但東町国際交流のつどいに参加

10月4日 “モンゴルまるかじり” 夕食会ボランティア

10月8日 如布神社神楽披露

11月8日 D・ウルタナサン夫妻来日 役員宅ホームステイ

11月18日 役員会

11月30日 博物館前販売所閉店

12月19日 販売所反省会



A棟西側外壁塗装工事

3月30日から11月30日まで延べ52日、博物館前の販売所にて観光案内と物産販売を行い、ボランティア延べ121名の協力を得た。

5. 博物館協力会

博物館協力会は当館が位置する資母地区の住民から「いつまでも美しい建物にしよう」という声が上がリ、加藤廣巳氏と塩川剛三氏の呼びかけで、平成9年2月10日に発足した。会長は博物館が位置している如布区長がこれにあたり、周辺地域の区長や各団体の長が理事として連なる。また、資母地区選出議員、博物館職



カマクラづくりボランティアの様子



カマクラづくりボランティアの様子

6. 博物館日誌抄

- 4月1日 辞令交付式
- 4月2日 第19回企画展『モンゴル近代絵画の魅力』
展示替
- 4月5日 読賣新聞「企画展」取材
- 4月16日 チューリップまつり開園
- 4月17日 全但バス・時を奏でるホテル新入社員研修受
入、NHK企画展取材
- 4月18日 合橋小学校1～2年生48名遠足来館
- 4月22日 鶴田誠樹木医・宮田和男樹木医河ノ辺の大桜
調査
- 4月27日 チューリップまつり閉園
- 5月2日 鶴田誠樹木医河ノ辺の大桜調査
- 5月5日 こどもの日小中学生入館料免除
- 5月8日 消防施設点検
- 5月9日 出石警察署浜本氏外1名来館、但馬小中学校
事務職員研究会講師依頼のため来館
- 5月11日 博物館協会の16名カンナ定植
- 5月13日 但馬地域博物館連絡会総会（木の殿堂）
- 5月15日 豊岡出土文化財管理センター木製品処理につ
いて来館、但東町教職員研修受入
- 5月19日 博物館外壁及びガラスクリーニング
- 5月22日 トライやるウィーク打合せ会
- 5月24日 源流シンポジウム（奈良県川上村）に参加：
金津
- 5月26日 但馬牧場公園よりヤギ（親子）の寄贈を受ける
- 6月2日 トライやるウィーク5名受入（～6月6日）
- 6月3日 神戸新聞「トライやるウィーク」取材
- 6月5日 神戸・毎日・朝日新聞「トライやるウィーク」
取材
- 6月6日 文化財調査委員会
- 6月8日 合橋小学校3年生5名調べ学習のため来館
- 6月11日 香寺町より視察28名受入
- 6月18日 第20回企画展『モンゴルの国民画家G・オド
ン展』展示替
- 6月19日 神戸新聞「企画展」取材
- 6月22日 モン関西「モンゴルの歌とおはなしの会」、
宇宙メダカ研究会より宇宙メダカ6匹到着
- 6月23日 神戸新聞「宇宙メダカ」取材、ヤギ柵づくり
- 6月25日 北但合併協議会関係者24名視察来館
- 6月30日 ティーズ、ホームページ作成のため打合
- 7月3日 読賣新聞「竪穴式住居」取材、劇団「ささゆ
り」公演打合
- 7月6日 如布区老人会博物館周辺除草ボランティア
- 7月12日 毎日新聞「竪穴式住居」取材
- 7月15日 毎日・神戸新聞「宇宙メダカの稚魚」取材
- 7月20日 読賣新聞「博物館教室（縄文楽器づくり）」取
材
- 7月21日 ヤギの親子名前決まる（親・メイ子・ハネ
ル）
- 7月24日 馬頭琴コンサート（スーチンドロン氏・タイ
ピン氏）
- 7月25日 神戸新聞「ヤギ」取材
- 7月26日 朝日テレビ「きらっと!! まちかいどう」取
材打合せ来館、虫生安牟加神社農村歌舞伎舞
台「ささゆり」公演
- 7月28日 文化財調査委員会
- 7月29日 宮田和男樹木医河ノ辺の大桜ベッコウダケ駆
除の指導
- 7月30日 第21回企画展『チベット仏教の影響を受けた
伝統絵画』展示替
- 8月5日 神戸新聞「企画展」取材
- 8月9日 オルガンコンサート
- 8月10日 ヤギの名付け親（衣川真矢ちゃん）記念品贈呈
- 8月14日 神戸新聞国際理解学習ツール取材

8月16日 オルガンコンサート
 8月17日 畑三柱神社農村歌舞伎舞台「ささゆり」公演
 8月22日 ヤギ検査のため永井獣医師往診
 8月24日 ヤギ治療のため永井獣医師往診
 8月25日 山東町教育研究会国際理解部研修10名受入
 9月4日 読賣新聞「企画展」取材
 9月6日 平田春日神社農村歌舞伎舞台「ささゆり」公演
 9月11日 兵庫県博物館協会理事会出席、博物館実習生
 井瀬由美子受入（～14日）
 国際交流事業「モンゴルまるかじり」打合せ会
 9月15日 敬老の日65歳以上入館料無料
 9月19日 資母公民館長堀勝彦氏就任あいさつ
 9月22日 出石警察署浜本氏転勤あいさつ
 9月23日 今井陸雄氏（今井敏郎氏次男）下見のため来館
 9月24日 第22回企画展『D・ウルタナサン展ーモンゴ
 ル芸術の伝統と革新ー』展示替
 9月29日 産経新聞「モンゴルまるかじり」について取材
 10月2日 久畑一宮神社ケヤキ群砂防工事による現状確
 認
 10月4日 国際交流イベント「モンゴルまるかじり」、パ
 トジャルガル駐日モンゴル特命全権大使来館、
 馬頭琴・コカリナコンサート
 10月5日 国際交流イベント「モンゴルまるかじり」2
 日目、鳥取但馬会（今井陸雄氏）56名来館
 10月12日 如布神楽博物館駐車場で披露、関西学院大学
 中野ゼミADSL調査（～13日）
 10月17日 赤坂古墳調査
 10月20日 文化財調査委員会文化財パトロール
 10月21日 全館燻蒸
 10月22日 神戸製額「チンギスハーンの生涯」額装納品・
 設置
 10月23日 子育て学習センターオルガンコンサート
 「お母さんとうたおう」
 10月27日 外壁補修工事、赤坂古墳発掘調査始まる
 10月28日 講談社高島恒雄氏取材のため来館
 11月2日 サンテレビ「ふるさとステーション」取材
 11月3日 開館7周年記念日入館料無料
 11月7日 緑の協力員岡本誠喜氏パンジー定植に来館、
 軒先クリーニング、文化財調査委員会文化財
 パトロール
 11月9日 D・ウルタナサン夫妻来日、牧民演奏家ネル
 グイ氏馬頭琴コンサート
 11月10日 しゃがあ西村幹也氏外8名町内3小学校で馬
 頭琴コンサート
 11月14日 公民館図書入換え
 11月15日 D・ウルタナサン夫妻帰国、神戸里山クラブ
 体験学習（縄文楽器づくり）に来館

11月20日 文部科学省エルネットによる財務事務担当者
 説明会・但馬教育事務所 八鹿町教育委員会
 より受講
 11月21日 赤坂古墳移設工事入札
 11月23日 山東町伝統文化こども教室農村歌舞伎舞台活
 用事例について14名来館
 11月26日 第23回企画展『モンゴル近代絵画の巨匠』展
 示替え・11月27日～12月27日
 12月1日 京都嵯峨芸術大学付属博物館企画展について
 林潤一教授外2名打合
 12月9日 神鋼パンテックユニオン関谷久之氏外1名来
 館
 12月12日 監査
 12月18日 赤坂古墳移設作業開始、石室の石材搬入
 12月19日 ヤギの柵移動
 12月23日 赤坂古墳調査終了、神戸新聞「赤坂古墳出土
 品」取材
 12月26日 役場用務納め
 12月27日 第24回企画展『民主化以降の現代絵画』展示
 替、大絵馬ロビーに設置・平成16年2月1日
 奥矢根但馬天満宮に奉納



設置された絵馬

12月28日 全館（Pタイル床）清掃、年末年始休館
 （～4日）
 1月5日 役場用務初め式、辞令交付式（大岸主査転属・
 山本主事後任）
 1月6日 朝日新聞「大絵馬」他取材
 1月8日 神戸新聞「大絵馬」取材
 1月9日 豊岡市出土文化財管理センター所長瀬戸谷皓
 氏外2名赤坂古墳出土品確認のため来館
 1月10日 北淡活断層シンポジウム2004出席（～11日）
 1月13日 京都嵯峨芸術大学付属博物館山路館長外2名
 企画展資料選定のため来館

- 1月15日 久畑一宮神社ケヤキ着雪により倒木現地確認並びに事後指導
- 1月17日 惑星社 国立劇場情報資料館設置の映像資料(安牟加神社農村歌舞伎舞台)取材
- 1月19日 箱田正子氏(豊中市在住 旧姓岩吹)より絵画寄贈
- 2月3日 久美浜町立佐濃小学校2年生21名校外学習来館
- 2月5日 京都嵯峨芸術大学付属博物館へ資料貸し出し
- 2月6日 野田川町立石川小学校2年生20名校外学習来館
- 2月10日 久美浜町立川上小学校2年生17名校外学習来館
- 2月10日 但東町立資母小学校3年生22名校外学習来館
- 2月21日 東井義雄賞(いのちのことば)交流会出席:金津
- 2月23日 加悦町立加悦小学校2年生31名校外学習来館
- 2月24日 野田川町立三河内小学校2年生30名校外学習来館
- 2月24日 久美浜町立田村小学校2年生10名校外学習来館
- 3月1日 但東町立合橋小学校3年生18名校外学習来館
- 3月2日 野田川町立岩屋小学校2年生7名・3年生14名校外学習来館
- 3月2日 但東町立但東北中学校生徒2名博物館周辺清掃奉仕
- 3月4日 但東町立高橋小学校2年生7名・3年生9名校外学習来館
- 3月4日 出石町立小野小学校2年生11名校外学習来館
- 3月8日 出石町立寺坂小学校2年生10名校外学習来館
- 3月14日 元大阪外国語大学教授荒井伸一氏外5名来館
- 3月18日 神戸新聞「赤坂古墳(復元)」を取材
- 3月20日 但東町立但東中学校竣工式:金津
- 3月25日 北海道立北方民族博物館中田篤学芸員資料調査のため来館
- 3月26日 赤坂古墳移設復元完了
- 3月30日 兵庫県埋蔵文化財調査事務所主任調査専門員井守徳男氏、赤坂古墳出土品調査のため来館

6. お客様の声より抜粋

以下は平成15年度の利用者の声を抜粋したもので、博物館職員としては真摯に受け止め今後の運営に活かしたいと考えている。

- ◎ 4月3日 兵庫県豊岡市(女性)
取材で寄せていただきました。近いのに知らないモ

ンゴル、深いですね。顔が同じ(似ている)なのに全く違う文化。是非多くの人に見てほしい施設です。また、モンゴルの帽子が似合うという感想が多いのは面白いですね。

- ◎ 4月6日 (女性)
わたしは2年生でスーホの白い馬を国語でならいました。しゅくだいにモンゴルしらがあつたので今日これたのがとてもうれしいです。
- ◎ 4月7日 大阪府箕面市(男性)
以前からテレビ、新聞で見えていたので一度来て見たかったのが本日実現できてとても嬉しく、様々な品を見て感動しました。なぜか心にしみこんできます。
- ◎ 4月7日 大阪市・京都市(女性)
とても興味深い展示でおもしろかった。どうして但東町がモンゴルを紹介しようとしたのかその理由がどこかに書いてあるとよいと思いました。
- ◎ 4月13日 (女性)
友達10人できました。但東町とモンゴルのつながり……?と思ひながら見てまわっています。
- ◎ 4月13日 兵庫県姫路市(男性)
一度来てみたいと思っていました。すばらしい展示品の数々。モンゴルの心の豊かさを感じました。
- ◎ 4月14日 京都府舞鶴市(男性)
町の規模でこれだけの展示はすばらしいです。いろんな資料を収集いただき、更に充実した博物館になるよう発展を祈念しております。
- ◎ 4月17日 兵庫県篠山市(女性)
チューリップまつりはとてもよかったです。モンゴルの人々の生活はとても素晴らしい生活をされているのが分かります。うらやましいとも感じました。モンゴルの人々はとてもおしゃれなんですね。
- ◎ 4月17日 神戸市北区(男性)
チューリップまつりの帰りによりました。なぜかとてもなつかしい思いがしました。モンゴルの服を着て写真を撮り楽しかったです。これからシルク温泉によって帰ります。
- ◎ 4月20日 京都府久美浜町(女性)
300円でこんなにいろいろ楽しめるとは思わず入館しました。静かな環境ですし、また来たいと思います。
- ◎ 4月27日 兵庫県八鹿町(女性)
スーホの白い馬のものがたりで、モンゴルのことをしつてきてみました。
- ◎ 4月27日 京都府福知山市(女性)
モンゴルのことがよく分かりました。ゲルの中のベッドも気持ちよかったです。また来ます。
- ◎ 4月28日 兵庫県加古川市(女性)
ゲルが意外と小さかったのには驚きでしたが合理的

な住まいで嬉しいところもあります。博物館にカメラを持って入ってもいいというのに驚きました。モンゴル衣装を着て写真を撮りうれしかったです。とてもきれいな博物館でした。

◎ 5月3日 (男性)

モンゴル博物館、想像以上の代物だ。是非馬乳酒が飲みたい。

◎ 5月4日 大阪市 (女性)

GWと夏休みは但東町の家に来ます。その度にモンゴル博物館に来ています。ここに来るのが恒例になってしまい、いつも来ているのに、よく知っているのにまた来たくります。本もたくさんありホッとできる時間がもてます。

◎ 5月4日 大阪府 (女性)

何度も但東には来ているのに、やっとここに来ることができました。想像していたよりとてもステキな場所感激です。

◎ 5月4日 神戸市西区 (女性)

学校の国語の授業に館長さんが来てくれました。スーホの白い馬のお話が大好きで本物の馬頭琴を見て感動しました。

◎ 5月6日 兵庫県氷上町 (女性)

時間が過ぎているのに入れていただきありがとうございます。人のやさしいモンゴルに触れられました。

◎ 5月6日 兵庫県豊岡市 (女性)

私たちと同じ顔をしたモンゴル。シンプルな生活、家族の団らん、全て現代人の失ったものを見ました。生来の人類の生活はこのようであるのが理想だと思います。

◎ 5月25日 京都府亀岡市 (女性)

民族衣装が実際に触れられたり、着てみれるなんて大変楽しかったです。

◎ 6月13日 大阪市 (女性)

初めてモンゴルの生活を見ました。このお家はすごく癒し系です。モンゴルの服や靴、とってもかわいいです。でも実際の生活はさむくて、きびしそう。

◎ 6月23日 大阪府高槻市 (女性)

遊牧民でありながら生活に追われることなく豊かな色彩の品々に囲まれて自由に今を楽しみながら生きている。私たち日本人が失った“生きることを楽しむ”そんな彼らのような感じがした。

◎ 7月4日 大阪府門真市 (女性)

親しみの感じる展示でとてもよかった。説明も分かりやすい。また訪れたいし、職場の人に紹介したい。

◎ 7月12日 大阪府高槻市 (女性)

ゲルに一度入ってみたかった。全館ともに想像以上に見ごたえがあり来てよかったと思いました。

◎ 7月17日 茨城県 (男性)

ゲル・日本の民家ともに入れるし、衣装やネットも無料で使え開放的な施設ですね。想像以上によかったです。あとは、子どもがまたがるような馬の模型があるといいですね。

◎ 7月19日 愛知県刈谷市 (男性)

今モンゴルの音楽学校に行っている青年が帰国していまして馬頭琴を習っているんです。馬頭琴の弦、教則本はないものでしょうか。

◎ 7月20日 京都市左京区 (女性)

なぜ但東町にこの博物館があるのでしょうか。町民とモンゴルの交流などあれば、そうした点にも触れた内容があったほうがいいのでは……。でも、静かにゆっくり見られてよかったです。民族衣装は家族で着て写真を撮りました。

◎ 7月31日 京都府向日市 (女性)

ゲルの中に入り、日本の民家にもあがれ、民族衣装も着れて楽しかった。子どもたちも飽きることなく見ることができました。近くなら図書スペースに来たいと思うほどいいスペースですね。

◎ 8月3日 京都府 (男性)

日頃モンゴルとのかかわりがないので、今日来館して文化等が理解できてよかった。

◎ 8月9日 大阪府和泉市 (女性)

昔の農家の人が使った道具を見てびっくりしました。とても懐かしく見せていただきありがとうございます。

◎ 8月11日 大阪府 (女性)

ゲルを見たり、服が着れてよかった。仏教の説明も勉強になりきてよかったと思う。また、但東町の昔の家があり中には入れたのもよかった。うちの家も農家なので、昔はこういうものを使っていたなあ〜と親が懐かしがっていた。

◎ 8月11日 兵庫県八鹿町 (女性)

ここに来たのは2回目になりますが、何回来ても楽しめるし勉強にもなるのでとてもいいところなんだろうなあとは思います。それに、モンゴルは海を渡らなければ行けないけどこの博物館に来るとそんなに遠くないし、海を渡らなくていいのに本当にモンゴルに来たみたいです。

◎ 8月11日 京都市山科区 (女性)

本日(月曜日)が休館かどうか調べるため公式HPを拝見したが、確認できず。私設HP“モンゴル文化の森”でやっと確認できた。せめて休館日くらい公式HPに載せられてはいかがですか。モンゴルの仏教について、モンゴルに大河があることを始めて知りました。

- ◎ 8月15日 神戸市湊川区 (男性)
但東町にとっても興味を持ちました。こんなところで生活できたらいいなあと思います。田舎暮らしに興味が増しました。
- ◎ 8月15日 兵庫県宝塚市 (女性)
モンゴルの生活を体験できるコーナーをいっぱいふやしてほしい。民族衣装はよかったです。
- ◎ 8月16日 千葉県船橋市 (男性)
もっとビデオでモンゴルの生活を紹介してほしい。
- ◎ 8月18日 (男性)
大学で東アジアの言語を学んでいます。ハングル・モンゴル・チベットなど、次は友達を引き連れてやってこようと思います。とても面白かったです。
- ◎ 8月24日 和歌山県岩出町 (女性)
看板を見て、以前テレビで紹介されていたような気がして寄ってみました。私たち夫婦以外誰もいなかったのゆっくり見ることができました。服を着たり、民家に入るなど参加型のものがありとても楽しく親しめました。
- ◎ 8月30日 兵庫県明石市 (女性)
毎年シルク温泉に行った帰りに寄せていただいています。こちらでホーミーのCDを購入したり、モンゴルに興味を抱いております。できれば“生”でホーミーを聴きたいです。ゲルの展示など子どもも喜んでいました。
- ◎ 8月30日 兵庫県但東町 (女性)
外にヤギがいてとてもかわいかった。さわるときもちよかったです。
モンゴルはくぶつかんでコンピューターをしました。そのあと中を見てまわり、さいごに水そうを見てかえりました。
- ◎ 8月31日 京都府福知山市 (男性)
思っていたより展示品も多く期待していた以上であった。今後も更にモンゴルの物産の紹介や、即売などの催しをされてはと思います。
- ◎ 9月5日 京都府福知山市 (男性・女性)
はじめて来ましたが、仏教に関する事柄など盛りだくさんで、また是非ゆっくりと来館したいと思います。非常にボリュームがあり充実していました。
- ◎ 9月13日 鳥取県鳥取市 (男性)
自由に衣装が着れ、写真が撮れるのはいい。所によれば衣装のレンタル料を取られるところもある。種類もサイズも多くてよかった。
- ◎ 9月23日 兵庫県姫路市 (女性)
入館者を信頼した展示だと思いました。ゲルがよかったです。
- ◎ 9月25日 兵庫県明石市 (女性)
以前より展示品が多くなっているように思いました。昔のモンゴルの人の生活をかいま見たように感じました。
- ◎ 9月28日 神戸市垂水区 (女性)
モンゴルの文化、生活にふれることができました。子どもがモンゴルの服と帽子を気に入り、「ほしいな〜」とっています。日本の昔の農作のところも、とても興味があったようです。実際に畳の上の上がることができ楽しかったです。
- ◎ 9月29日 兵庫県明石市 (女性)
私は昔からモンゴルに興味があり、自分のルーツはモンゴルではないかと勝手に思っています。ここに来てみて初めてなのに懐かしい気がしました。
- ◎ 10月4日 京都府綾部市 (男性)
私、源義経のファンで今でもチンギスカンは源義経だと思っています。いつかモンゴルに行ってみたい。
- ◎ 10月13日 兵庫県加西市 (男性)
当館長さんの話を聴いて……。大変立派な施設と展示物に関心しました。
- ◎ 10月13日 兵庫県豊岡市 (女性)
モンゴルの暮らしはどんな工夫をしているか、はじめて見て納得しました。でもトイレはどうするのだろう。文化の違いをいろいろ知りたいです。
- ◎ 10月25日 兵庫県出石町 (女性)
大阪の国立民族学博物館がすきなのですが、ここも近い内容でとても楽しめました。前記の博物館とタイアップした企画をされても面白いかもしれませんね。
- ◎ 11月2日 京都市伏見区 (女性)
3年前にも家族で寄せていただきました。近くまで来て大変懐かしく思い寄せていただきました。遠方なのでたびたびこれませんが機会があればまた寄せていただきます。
- ◎ 11月3日 モンゴル (女性)
私は日本に来たときこんなところがあるとは知りませんでした。ここにはモンゴルに関するものがたくさんあるんですね。これはモンゴルについて日本人に知ってもらいたい大きな可能性となりうると思っています。
- ◎ 11月8日 モンゴル (女性)
私は日本に来て3年になるモンゴルからの留学生です。日本にモンゴル博物館があると聞いて、今日、日本人の友達と来てみました。私はモンゴルが大好きです。こんなに素晴らしい博物館を作ってくれてありがとう。すごく気に入りました。モンゴルと日本の関係が将来もっと発展することをお祈りしています。
- ◎ 11月8日 大阪府河内長野市 (女性)
とっても面白く気に入りました。楽器に触れて弾い

てみたかった、静かですしまた来ます。

- ◎ 11月9日 京都府亀岡市（男性）
宮津に住んでいます。仕事のため前を通ったことは何度かありますが入館は初めて。偶然馬頭琴の生演奏がありラッキーでした。
- ◎ 11月11日 モンゴル・ウランバートル市
(男性・女性)
私の「モンゴル芸術の伝統と革新」という作品展を開いていただきましたことに対し、博物館職員のみなさまにたいへん感謝しております。みなさまのご成功をお祈りしております。
- ◎ 11月23日 (男性)
ついでに来たけど意外にはまってしまったかも……。テレビで見るのとは違いいろいろ勉強になり楽しかった。これから少しモンゴルを探してみたいような……。
- ◎ 11月29日 兵庫県青垣町（女性）
子どもたちに珍しい衣装が着せてやれてよかったです。はじめて見るものばかりで、子どもたちからたくさん質問をされました。親子ともども勉強させていただきました。
- ◎ 12月6日 大阪府東大阪市（女性）
落ち着いた雰囲気です静かに観覧することができました。
- ◎ 1月17日 (女性)
夫とともに旅行、今日で9日目、明日帰る予定。シルク温泉に泊まりモンゴルを見に来たがとてもよかった。
- ◎ 1月17日 兵庫県生野町（女性）
とても勉強になりました。子どもたちにも見せてあげたいと思います。
- ◎ 1月31日 兵庫県出石町（女性）
スーホの白い馬をならって、先生にぜひひいてみてくださいといわれきました。勉強になりました。
- ◎ 2月8日 京都府福知山市（男性）
以前来た時よりもたくさんの展示物があり、大変よかったです。
- ◎ 2月16日 兵庫県姫路市（女性）
今まで知らなかったモンゴルがなんだか身近に感じました。ゲルを見学したり、民族衣装も着ることができ大変興味深く楽しめました。
- ◎ 2月21日 京都府宮津市（男性）
こんな身近にこんな博物館があり、以前から興味があった国（モンゴル）だけに楽しく興味深く見せていただきました。ただし、手にとって触れる展示物（馬頭琴等）がたくさあればと思いました。
- ◎ 2月21日 兵庫県和田山町（女性）
きょうかしよでならったので見にきました。ばとう

きんが見れてうれしかったです。

- ◎ 3月6日 兵庫県三木市（女性）
小学校2年生の息子が「スーホの白い馬」を勉強しており、大変参考になりました。
- ◎ 3月14日 滋賀県守山市（男性）
なぜここに、モンゴル民族博物館があるのか分からなかったが、展示物は素晴らしかった。近代絵画も素晴らしい。
- ◎ 3月16日 兵庫県氷上郡（女性）
18歳の娘ときました。よい年にもかかわらず2人で民族衣装を着ておおはしゃぎしました。見るだけでなく実際に体験できすごく楽しかったです。また来ます。
- ◎ 3月20日 京都府峰山町（女性）
建物は前から知っていたが、中にこれだけたくさんものが展示してあるとは思っていませんでした。
- ◎ 3月20日 京都府伊根町（女性）
館内がとても静かで落ち着いて見学することができました。
興味深いことがいっぱいあって、1日中居れそうでした。
歴史にとっても興味があるので大変勉強になりました。モンゴルについてはあまり知りませんでしたが、来る機会がありよかったです。シルクロードについてよく調べてみたいと思います。
- ◎ 3月29日 (男性)
以前テレビでモンゴルの習慣などを紹介している番組に興味深く見ていました。その中で「バター茶」なるものを飲んでみたいと思い続けていました。うまいのか？ まずいのか？ どんな味なんだろう？と、いまだに思っています。今日、ここを訪ねたら飲ませてくれるところがあるかもしれないと立ち寄りしましたが残念。でも、民族衣装で写真を撮り満足でした。

8. 施設概要

(1) 本館建築概要

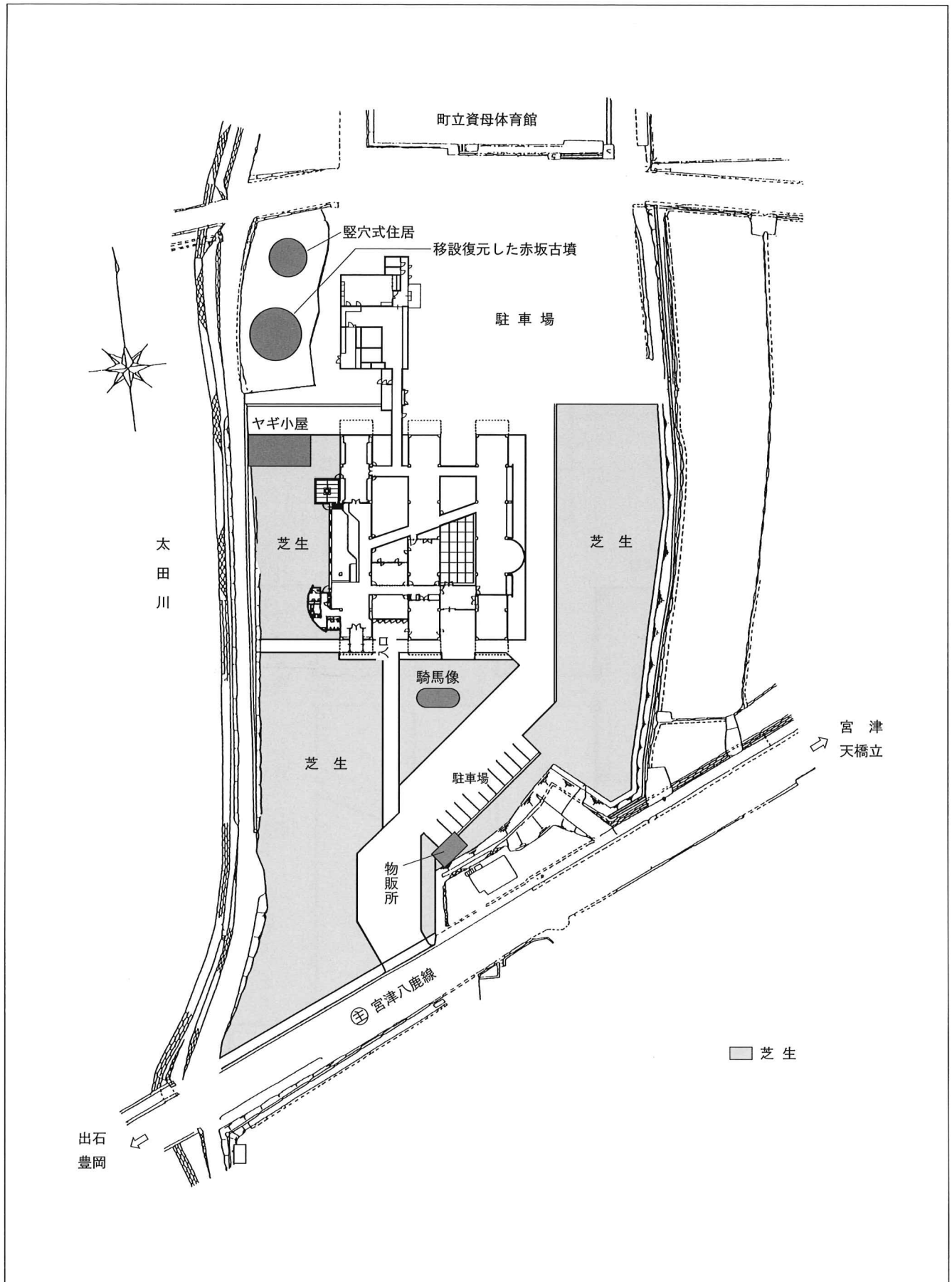
位置	兵庫県出石郡但東町中山 711
基本設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
実施設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
工事施工	建物 川嶋・井田・マルテン特別共同企業体 展示 株式会社さんよう
工期	建物 着工 平成7年12月14日 竣工 平成8年8月12日 展示 着工 平成8年5月7日 竣工 平成8年10月30日
敷地面積	10,402.84m ²
建築面積	999.65m ²
構造概要	鉄筋コンクリート造 フッ素樹脂塗装鋼板瓦棒葺 立体トラス鉄骨 (KTトラス)
各室面積	玄関ホール・たんとうの森 211.6m ² 、国際理解学習室 56.5m ² 、荷解室 33.3m ² 、事務室 33.3m ² 、館長・応接室 28.0m ² 、準備室 48.2m ² 展示室「東アジアの歴史」 75.7m ² 展示室「モンゴル草原の暮らしと文化」 206.8m ² 展示室「チベット仏教」 37.7m ² 、企画展示室 74.4m ² シルクロード(回廊) 1 13.3m ² 、シルクロード(回廊) 2 13.3m ² シルクロード(回廊) 3 12.6m ² 、シルクロード(回廊) 4 12.6m ²
建物規模	平屋建て 東西41.8m 南北42.5m 地上高9.0m
仕上げ	〈外装〉復層吹付 〈内装〉床 : モルタル下地タイルカーペット貼 壁 : 山本窯業化学テラックス、石膏ボード、化粧合板 天井 : 杉小幅板、岩綿吸音板貼り

(2) 伝承文化体験交流館建築概要

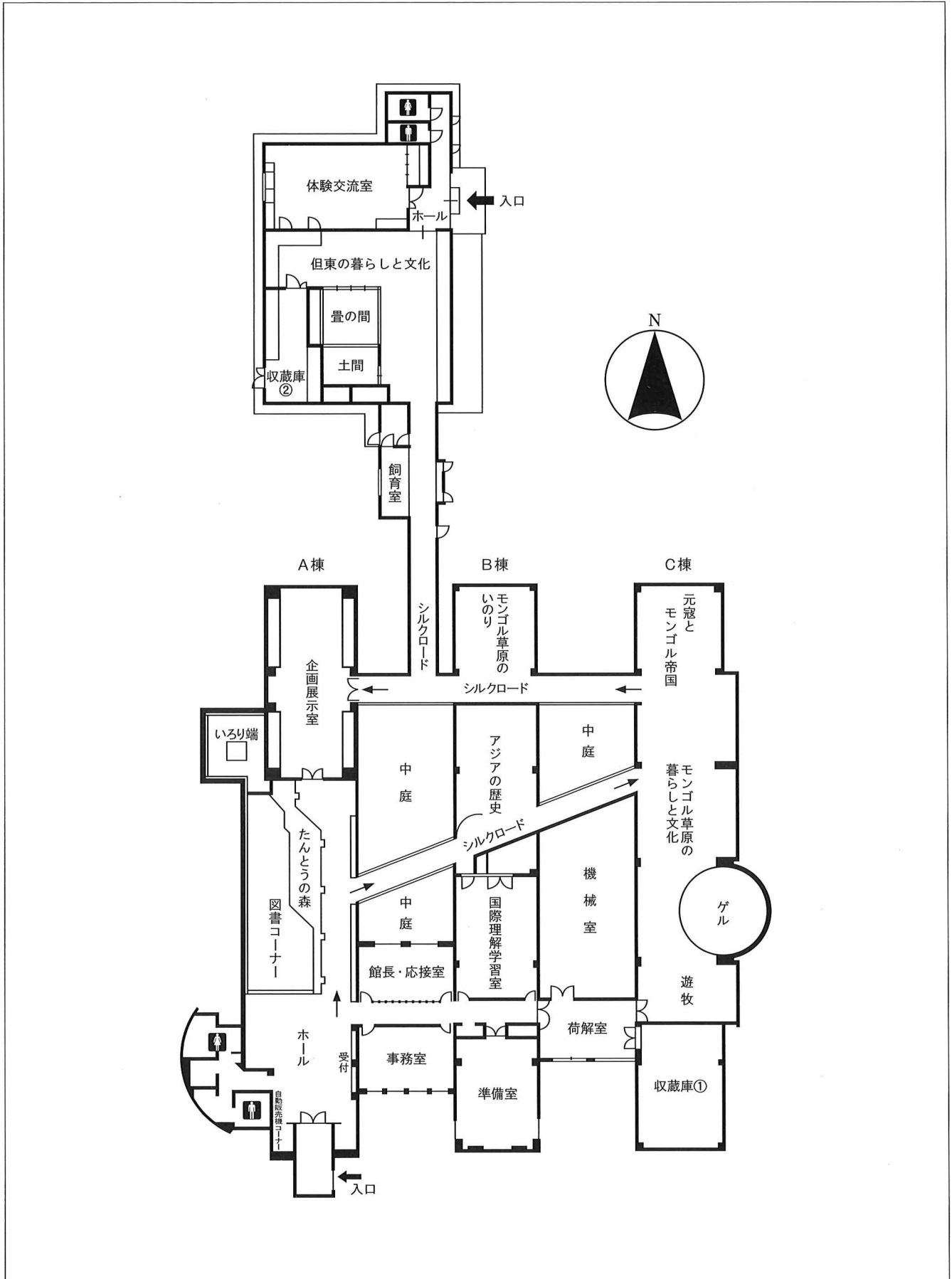
位置	兵庫県出石郡但東町中山 711
基本設計	建物・展示 井上良一建築設計事務所
実施設計	建物・展示 井上良一建築設計事務所
工事施工	建物 株式会社マルテン 展示 株式会社ナギサ建築工芸
工期	建物・展示 着工 平成11年9月14日 竣工 平成12年3月29日
建築面積	317.57m ²
構造概要	一部鉄筋コンクリート造 木造瓦葺
各室面積	体験交流室 62.6m ² 、展示室「但東の暮らしと文化」 112.5m ² シルクロード(回廊) 5 36.4m ² 、収蔵庫 27.2m ²
建物規模	平屋建て 東西 12.80m 南北 21.17m 地上高 7.05m
仕上げ	〈外装〉押出成形セメント板 〈内装〉床 : モルタル下地タイルカーペット貼 壁 : ビニルクロス貼 一部杉板張 天井 : 化粧PB張一部杉板張



(3) 配置図



(4) 平面図



9. 利用案内 (平成15年度)

開館時間 9時30分から17時まで
(入館は16時30分まで)

休館日 水曜日 (5月3日は開館)
年末年始 (12月28日～1月4日)
展示替え及び燻蒸による臨時休館

観覧料 一般 500円 (450円)
高校・大学生 300円 (250円)
小学・中学生 200円 (150円)

※カッコ内は20名以上の団体の場合

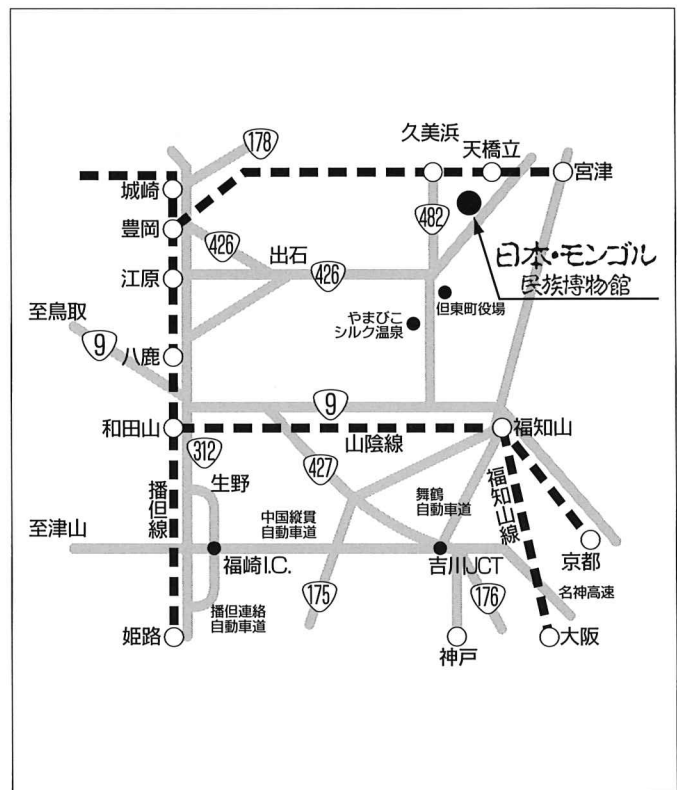
観覧料の減額

- 但馬ファンクラブ (一律100円の減額)
- J A F 協定 (一律50円の減額)
- 65歳以上のかたは観覧料の半額
- 身体障害者 (介助者を含む) のかたは観覧料の半額
- 兵庫県内の小学・中学生はココロンカードの提示により無料
- 兵庫県内の小学・中学生を引率する教員は無料
- 但東町民はすべて無料

10. 交通案内



但東町位置図



アクセス・マップ

あとがき

■ 平成16年1月、私にとって思いもかけない辞令ができました。“北但合併協議会へ出向を命ずる”という辞令でした。博物館への辞令も驚きましたが、今回の辞令はさらにびっくりしました。

博物館に勤務して約7年半、たくさんの友人と出会い、たくさんの方に支えていただきました。それまでの私では絶対にできなかった経験もさせていただきました。

博物館協会の皆さん、イベント企画から当日の手伝い、後片付けまでしていただき本当にありがとうございました。福田顧問、いろいろと人生教訓をいただいたり、但東町の歴史をご教授いただきありがとうございました。但東の歴史を深く心に刻みながら合併業務に邁進していきたいと思っております。金津館長、できの悪い部下で申し訳ありませんでした。いろんなことを一生懸命教えていただき本当にありがとうございました。森脇先生、堀先生、高木さん、渡辺さん、柴田さん、木村さん、池田さん、忘れることの多かった私を支えていただき、本当にありがとうございました。この7年半のことを忘れることなく、新天地でも頑張っていきたいと思えます。(平成16年4月記)

(大岸勝也)

■ 開館当初よりこの館の運営に携わってきた大岸主査にかわり、1月から当館のスタッフとなりました。

この館の中で仕事をしていて常に感じるのは、館のスタッフだけでなくいつも運営を支えてくれる沢山の人たちとの関係の深さとその人たちの頼もしさです。オープン以来積み上げてきたものの重みを感じずにはいられません。関係者の皆様、そして利用者の皆様本当にありがとうございます。

利用者への解説、館外での活動、日々の事務仕事……ここで仕事をするようになってから3ヶ月が経ちましたが本当に驚きと失敗、反省の毎日です。利用者の「ありがとうございます」と言う言葉に励まされる時もあれば、自分のしでかした過失の大きさに顔を青くする時もあります。それでも、どんな状況でも言い訳だけはしないようにと心がけていますので、その反省を前向きに捉えこれからの活動につなげていけたらと思っています。日々精進あるのみです。ご指導とご鞭撻よろしく願います。

(山本龍馬)

■ 学校週5日制になって1年が過ぎた。はたして子どもたちにゆとりができたのだろうか。子育ては地域ぐるみでといわれる昨今、博物館では、子どもたちの土曜・日曜・休日の居場所作りと学校ではあまり手がけられない、つくる楽しさ、できた喜びが味わえるような内容を考えながら多くの博物館教室を開いてきた。学校行事や少年野球などスポーツクラブと重複しないよう計画してきたつもりであるが、ゲームや漫画に及ばないのか参加者が少ないことはおおいに反省しなければならない。

教室に参加した子どもたちは全てではないが、出来栄は別として早く作ってしまいたいとする傾向が見受けられる。急がずに、ゆつくりと、友達の考えを聞いたり工夫したりすることはどうも苦手らしい。これでは作る楽しさ、できた喜びが味わえようもない。私は、水前寺清子さんの三六五歩のマーチをよく口ずさむ。「三歩進んで二歩下がる……」「汗かきベそかき歩こうよ……」この歌は誰の生き方にも当てはまる歌と思う。立ち止まることの大切さ、立ち止まることにより見えなかったものが見える。

しかし、現実には立ち止まるなどそんな甘いものではないらしい。唯まっしぐらに結果を求める。そのことは受験勉強に始まり、社会に出ればさらに突っ走らなければならないご時世。子どもたちはこんな大人社会を見、振り回されているようにも思える。

戦後何もない時代、あるのは心についた大きな傷跡と知恵と工夫、助け合う気持ち、人々は唯々復興というひとつの目的にこつこつと勢を出し、見事復興を成し遂げた。その喜びは計り知れないものがある。

今、在学する子どもたちの親の年代は高度経済成長など出来上がったベースの上からスタートしているためか「生活をする、命を守ることは金さえあればできる」という概念があるように思えてならない。子どもたちから見て、おじいさん、おばあさんにあたる人は復興に立ち向かう親の背を見て育ち、よく手伝いもした。子育てをすることは子どもたちにいい背中をみせてやるのが一番ではなからうか。そのために、買うばかりでなく日曜大工や、手作り料理、屋外に子どもを連れ出すこともいいではないか。

子どもたちは、必ず新たな発見や、不思議、知恵や工夫を身につけ豊かな感性を育み、生きる力の足しになるものと思う。

(高木義彦)

■ 博物館の活動の中で、子どもたちと接するときは多い。今までもものを作る教室が多かったが今年度は、かたちのあるものを作るのではなく、内面のもの＝心をつくる時間を多くもつことができた。なかでも、茶道・華道という伝統文化に触れ、その心を学ぶことができた。難しいお作法やきまりと敬遠されがちかと思っただが、逆にそれが新鮮なようで、熱心に学ぶ子どもたちがそこにはいた。正座もおぼつかなかった子が、何回かするうちに背筋がピンと伸びているようになった。普段の生活とは関係ない空間かもしれないが、それが自然と生活に入り込み、心を豊かにするに違いない。生きていくために絶対必要なものではないが、そんな心を持つことで、金銭面ではない潤いのある生活を送ることができるのではないかと思う。これからも、さらにそんな教室をもち、子どもたちと一緒に学んでいきたいと思う。

(渡辺律子)

■ 今年もいつものように、1年があわただしく過ぎていった。そして、15年度も博物館教室の担当(七宝焼き・オリジナルグラス作り)、小学校への出前授業などいろいろな経験をさせていただいた。そして今更ながら、人に何かを教える・伝えることの大変さを痛感した。

人に何かを教えるには、まず自分がいろいろなことを十分理解し、分かっていないといけない。しかし私の場合、経験不足と勉強不足で参加してくれた子どもたちに十分伝わっているだろうかと反省することばかりであった。

こんな私が力づけられることがある。それは、子どもたちからのお礼の手紙である。「モンゴルのこといろいろ分かった」「馬頭琴にふれてみて感動した」とか、いろいろな感想が寄せられてくる。その中に「分かりやすかった」「教えてくれてありがとう」などと書かれていると、お世辞かもしれないと思いながら、よかったという気持ちでいっぱいになる。

これからも、自分なりにいろいろなことに一生懸命取り組んでいきたいと思っている。

(柴田明子)

日本・モンゴル民族博物館年報第7号

Japan Mongolia Folk Museum

No.7 (for the fiscal years of 2003)

〒668-0345 兵庫県出石郡但東町中山 711
711Nakayama, Tanto-Town, Hyogo 668-0345 JAPAN

TEL (0796)56-1000

FAX (0796)56-1022

URL: [http:// www.monpaku.com /](http://www.monpaku.com/)

E-mail: info@monpaku.com

発行／日本・モンゴル民族博物館

平成17年3月31日発行

印刷／嶋屋印刷

〒668-0233 兵庫県出石郡出石町田結庄 86

TEL (0796)52-3408 FAX (0796)52-6000